

投稿の手引き

令和5年11月3日改正

日本顎口腔機能学会雑誌への投稿では、投稿規程のほかは本手引きに準拠する。

1. 原稿の構成

投稿する原稿は以下のとおりである。

1) 投稿票

学会ホームページからダウンロードしたファイルを用いて、表題、著者名、本文原稿枚数、表枚数、図枚数、別冊希望部数、連絡著者名と連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mail)を記入する。

2) チェックリスト

学会ホームページからダウンロードしたチェックリストのすべての項目についてチェックを行った後、著者(複数の場合は代表の1名)が署名を行う。

3) 自己申告によるCOI報告書

学会ホームページからダウンロードした自己申告によるCOI報告書を記入した後、責任著者が署名を行う。

4) 和文表題(40字以内)、(ランニングタイトル(30字以内))、著者名、所属

5) 英文の表題、(ランニングタイトル)、著者名、所属

6) 和文抄録(600字程度)、和文キーワード(5語以内)

7) 英文抄録(300-400 words、和文抄録の内容に合致させる。)、英文キーワード(5 words以内、用語(小文字)、略語(大文字))

8) 本文原稿(下段中央に頁数を記す)

9) 表と図の説明

10) 表、図

2. 電子ファイルの作成

1) 投稿時

(1) 本文、図表ともPDFファイルに変換したものを送付する。

(2) 投稿票、チェックリスト、自己申告によるCOI報告書はそれぞれ単独のファイルにする。英語論文の場合は、英文校正証明書を添付する。なお、チェックリストは署名済みのものをPDFファイル化する。

(3) 本文部分(上記項目「1.の3」～8))は番号順に並べ、1つのファイルにする。

(4) 図表のファイルは本文と分離する。図表ごとに分けたファイルにしても構わない。

(5) PDFファイルに変換できない場合には、編集委員長に問い合わせる。

2) 論文採択決定後

編集作業用の電子ファイルを提出する。その際のファイル形式は以下のとおりとする。

(1) 原稿は、MS-Wordファイル、またはテキストファイルとする。

(2) 表は、MS-Word、MS-Excel、MS-PowerPointファイルあるいはPDFファイルとする。

(3) 図はJPEG、BMP、TIFF、GIF、PDF、あるいはMicrosoft PowerPointファイルのいずれかの形式とする。写真の解像度は白黒、カラーとも300dpi以上、線画は1200dpiとする。写真と線画を両方含んだ図は600～1000dpiとする。

3. 投稿原稿の書き方

1) 論文の記述様式

(1) 原稿の大きさはA4版で、1頁1200字(40×30行)とする。上下左右の余白は25～30mmとする。図表の頁以外は、通しの頁番号をフッタ部分に付ける。

(2)論文を分けて発表する場合には、主題の次に第1報あるいはIと書き、その内容を具体的に表す副表題を付記する。

(3)原則歴な論文の構成を以下に示す。臨床報告など内容により多少の変更は可。

I. 緒言, II. 研究方法 (材料と方法), III. 結果 (成績), IV. 考察, 結論, 謝辞など, 文献の順とする。

(4)見出しは次の順に項目をたて、行の最初の一画をあける。

I, II, III, IV,

□1, 2, 3, 4

□1), 2), 3), 4)

□(1), (2), (3), (4)

□a, b, c, d

□a), b), c), d)

□(a), (b), (c), (d)

(5)使用文字

文字の大きさは12ポイントで、全角または半角を使用する。飾り文字、特殊文字、拡大文字、外字等は避ける。

(6)数字

a. 数字は算用数字とし、すべて半角で入力する。

b. 数字を含む名詞、形容詞、副詞 (例: 十二指腸, 三角形など) は日本数字とする。

c. 単位は原則として国際単位系の基本単位, 補助単位および組み立て単位を使用する (温度は摂氏を使用する)。

(7)外国語

a. 外国語はすべて原綴りとし、表題を除き文頭にあたっては必ず大文字を使用しない。

b. 英文では英文フォントを使用し、半角で入力する。スペースも半角にする。

c. 英文の改行に際しては、wordで区切る。

d. 微生物、動植物などの学名はイタリックとし、最初の文字だけは必ず大文字で書く。

2) 文献の記載様式

(1)本文で引用した順序に一連番号を付して列記し、本文の末尾に記載する。同一箇所でも複数引用した場合は年代順とする。

(2)著者名は姓, 名 (外国人はイニシャルのみ) の順とする。

(3)共著の場合は筆頭者を含めて3名まで記して、4名以下の共著者は、「ほか」または「et al」と略す。

(4)引用文献の表示は原著の表示に従う。英文の場合は、文頭の語の頭文字のみ大文字とする。

(5)雑誌文献引用の記載は次の方式による。

a. 雑誌論文は著者. 表題. 雑誌略名 発行年 (西暦表示); 巻; 頁-頁. の順に記載する。ただし、頁は通巻頁とする。

b. 雑誌の略名はMEDLINEあるいは医学中央雑誌における略誌名を用いる。略誌名が不明の場合は、略さずに全名称を記載する。

c. 原書あるいは原論文がえられずに引用する場合は、末尾に (から引用) と付ける。

d. 投稿したが未発刊の文献は末尾に投稿中, 掲載予定と記載する。

例: 1) 長谷川成男, 藍 稔, 河野正司ほか. 顎限界運動における全運動軸の立体的測定. 補綴誌 1975; 19: 434-443.

2) Pakka S, Ash Jr MM. Power spectral analysis of the surface electromyogram of human jaw muscles during fatigue. Archs Oral Biol 1981; 26: 547-553

(6)単行本文献引用記載は次の様式による。

a. 単行本は著者. 書名. 発行地: 発行者; 発行年, 頁-頁. の順に記載する。

b. 単行本の書名は略記しない。

例: 3) 河村洋二郎. 歯科学生のための口腔生理学. 京都: 永末書店; 1966, 158-232.

4) Basmajian JV, De Luca CJ. Muscles alive. Baltimore: Williams and Wilkins;

1985, 1-222.

(7) 分担執筆の単行本文献引用記載は次の方式による。

分担執筆の単行本は分担執筆者：分担執筆の表題，編者または監修者，書名．巻などの区別，発行地：発行者；発行年，頁-頁．の順に記載する。

例：5) 石岡 靖, 山鹿卓郎. タッピング (tapping) 運動と筋電図. 石岡 靖, 小林義典, 長谷川成男ほか編, 顎口腔機能分析の基礎とその応用. 東京：デンタルダイヤモンド社；1991, 166-175.

6) Rowler AM. Specialization of mammalian jaw muscles: Fiber type compositions and distribution of muscle spindles. On: Taylor A, editor. Neurophysiology of the jaws and teeth. London: Macmillan; 1990, 1-55.

(8) 翻訳書文献引用記載は次の方式による。

翻訳の単行本，論文は著者（翻訳者）．書名（翻訳書名．発行地：発行者，発行年，頁-頁．），発行年の順に記載する。

例：7) Mohl ND, Zarb GA, Carlson GE, et al. (藍稔). A textbook of occlusion (テキストブック オクルージョン. 東京：クインテッセンス出版, 1993, 295-310), 1998.

3) 表と図の書き方

(1) 表と図は原則として 1 枚ずつの用紙に作成し，用紙の右下端に著者名，図または表番号を明記する．トレースを希望する図は「要トレース」と右肩部に朱書きする。

(2) 写真は原則として手札判程度に作成し，右下端に著者名，図番号を明記する。

(3) 表，図（写真を含む）とも記載希望寸法（「1/2 縮小」，「幅：片段」，「幅：両段」等）を用紙の右肩部に朱書きする．カラー刷りの希望の場合はその旨を明記する。

(4) 表と図（写真を含む）は本文中で引用順に，表は表 1，表 2・・・，図（写真を含む）は図 1，図 2・・・のように一連番号を付けて，本文の最後に綴じる。

(5) 表の番号と説明文は表の上部に付ける．長い説明文は下部に記載する。

(6) 図の番号と説明文は図の下部に付ける。

(7) 本文への挿入箇所は本文右欄に朱書きする。

(8) 表，図の説明文は和文と英文を併記する。

(9) 表は原則として下記のスタイルとし，必要に応じて細線を引く。

				(二重線)
項目	項目	項目	(細線)
項目				
項目				
.				
.				(細線)

*P<0.01 etc.

4. 倫理規定関連の法令，指針等

本誌投稿規定の「2. 倫理規定」に関連して，下記の法令，指針等に従うこと。

1) ヘルシンキ宣言

(<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>，日本医師会による日本語訳；

http://www.med.or.jp/wma/helsinki08_j.html)

2) 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第 1 号，

<https://www.mhlw.go.jp/content/000757566.pdf>)

3) 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年，

<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/kojin/kaisetsu/index.html>），および個人情報の保護に関する法律等の一部

を改正する法律（令和 2 年，

https://www.ppc.go.jp/files/pdf/200612_houritsu.pdf）

4) 研究機関等における動物実験等の実施に関する基

本指針（平成 18 年文部科学省告示第 71 号，

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusyo/nc/06060904.htm）

5) 著作権法 (<http://www.cric.or.jp/db/article/alhtml>)

6) 著作権制度に関する情報

(http://www.bunka.go.jp/chosakuken/index_2.html)

5. 投稿の方法

1) 投稿先

日本顎口腔機能学会雑誌 編集委員長宛とする。

2) 発送には E-mail を用いる。発送する電子ファイルについては「項目 2. 電子ファイルの作成」を参照。

3) 論文採択決定後，編集作業用の電子ファイルを提出する。

4) 原稿を E-mail で送付できない場合は編集委員長に連絡し，CD の郵送など代替りの方法を用いる。

5) 郵送の場合は，宅配便または書留郵便とする。CD はプラスチックケースに入れ厳重に梱包する。発送前に必ず電子ファイルのバックアップをとっておく。

6. 校正

1) PDF ファイル形式の校正用原稿を電子メールで著者に送付する。校正は日本工業規格 (JISZ8280-1965) に準拠して行う。

2) 校正を終了した原稿は，電子メールもしくはファックスで速やかに返送する。